

高校生の規範意識を育む生徒会活動

—岐阜県における「MSリーダーズ活動」の事例—

A study on student council activity to cultivate the consciousness of norm concerning high school student
: A case of “Manners Spirits Leaders Activities” in Prefecture of Gifu

林 幸 克
HAYASHI Yuki-yoshi

I. はじめに

昨今、高等学校教育の多様化が進展する中で、高校生の規範意識が注目されている。その規範意識の醸成のための政策動向に目を転じると、教育基本法改正（2006）の前後で、規範意識の捉え方に変化が認められること、研究レベルではその成果が蓄積されており、友人・仲間や家族・家庭との関係が規範意識の向上に寄与していること、そして、それを念頭に置いた方策を展開する必要があることを確認してきた¹⁾。

その中で、高校生の規範意識の醸成のために、実際にどのような具体的実践が行われ、成果や課題があるのかを検証することが、次のステップとして求められた。そこで本研究では、その実践事例として、岐阜県におけるMSリーダーズ活動に着目して分析・考察を進める。なお、本研究における規範意識は、「社会における規則やルールなどの価値判断の基準を、個人が内面化して遵守しようとする構え」と定義することにする。

II. 地域の諸資源を活用した規範意識の育成

高校生の規範意識の育成を考える際、学校だけではなく、地域社会の諸資源、具体的には警察等の関係諸機関との連携を視野に入れることが有益である。政策動向を概観すると、それが明示されている。

文部科学省・国立教育政策研究所生徒指導研究センター「規範意識をはぐくむ生徒指導体制」（生徒指導資料第3集）（2008）では、「警察職員等と連携した非行防止教育や防犯教室の実施を学校の年間指導計画に位置付けることも、近年ますます重要になっている」ことが示され、教育振興基本計画（2008）の特に重点的に取り組むべき事項でも、「いじめ、暴力行為、不登校、少年非行、自殺等への対応の推進を図るため、外部の専門家等からなる「学校問題解決支援チーム」や、「非行防止教室」等を有効活用し、関係機関等と連携した取組を促進する」など、関係機関等との連携の必要性が謳われている。また、中央教育審議会答申「学校安全の推進に関する計画の策定について」（2012）においては、学校における安全に関する組織的取組の推進について、「学校や学校の設置者においては、必要に応じ道路管理者、警察等と協働して、交通安全、防犯、防災等の観点から通学路を定期的に点検し、その結果に応じて適切な措置を講じるよう努める」こと、地域社会、家庭との連携を図った学校安全の推進に関しては、「学校においては、防犯を含む生活安全、交通安全、災害安全などに関して専門的知識を有し、活動を行っている関係機関や団体、民間事業者（交通安全教育に関する教習所など）と連携して、安全のためのより効果的な取組を進めていく」ことや「学校においては、地域との連携を進める上で、防災担当部局や気象台、警察などとの連携が求められる。それにより、体験型の安全教育をより充実させることができるなどの効果が期待できる。」ことが示されている。この答申を受けて策定された「学校安全の推進に関する計画」（2012）も、この趣旨を踏襲している。具体的な動きとして、警察等と連携して実施されることがある薬物乱用防止教室に着目すると、文部科学省「薬物乱用防止教室推進マニュアル～教育委員会における取組事例～」（2012）では、その実施率が年々増加傾向にあること、高等学校では約8割の学校が実施していることが示されている。

表1 薬物乱用防止教室の実施率 (%)

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
小学校	16.8	19.5	21.3	22.5	27.1	29.6	32.0	34.5	37.5	54.0	62.3
中学校	53.3	53.8	52.1	53.4	55.5	57.1	58.3	55.7	58.4	72.8	79.1
高等学校	66.7	64.8	63.3	61.8	62.7	63.7	64.4	61.2	64.1	75.3	78.8

III. 岐阜県におけるMSリーダーズ活動

こうした警察等と連携した活動に取り組んでいる実践として、MSリーダーズ活動を取り上げる。

1. MSリーダーズ活動の定義と始まりまでの経緯

MSリーダーズ活動のMはManners (規範, 礼儀作法), SはSpirit (意識, 精神) の頭文字で、岐阜県の高校生が組織する規範意識啓発委員のことである。MSリーダーズ活動は、「岐阜の未来は君たちで」をキャッチフレーズとして、高校生自らが自発的に取り組む「生徒の生徒による生徒のための非行防止・規範意識啓発活動」として位置づけられ、少年の規範意識の啓発と健全育成を図る活動である。これは、岐阜県警察本部による「高校生によるマナーズ・スピリット・リーダーズ活動推進要綱の制定について」(2001年10月13日付, 少第895号, 地第733号, 公企第2374号) に基づいている。予算も含めて県警の事業として位置づき、活動が開始した。MSリーダーズは、所轄警察署が行う認証式を経て登録されるもので、県下各高等学校等の在籍生徒であれば、誰でも登録が可能である。

警察がMSリーダーズを提唱した経緯には、2000年度に岐阜県で開催された「全国高校総合体育大会」の存在がある。その大会運営において、高校生によるボランティア活動「高校生一人一役活動」が県民に大きな共感を与えた。この活動を契機に、高校生を主体にした社会参加活動を展開することで、規範意識の向上、非行防止につながる機運が高まり、警察からの提言により、岐阜県教育委員会等と協議し、「社会参加活動は教育の一環」との結論に達し、2001年秋に飛騨地区の高等学校を皮切りに県内全域に広がっていった。翌年には全県実施されるに至ったが、当初は抵抗を持つ学校関係者も存在した。提唱当初は、その趣旨やねらいが十分浸透しておらず、各校数人ずつの活動にとどまっていたが、各校において先進校の活動内容を紹介すること、校内で呼びかけて範囲を広げたことで徐々に拡大してきた。なお、2000年という年であるが、岐阜県出身の高橋尚子氏がシドニーオリンピックの女子マラソンで金メダルを獲得した年、同じく岐阜県出身の白川英樹氏がノーベル化学賞を受賞した年でもあった。

右記のシンボルマークは、高校生が輪の中でスクラムを組んでいる様子が描かれており、「協力と団結」を象徴している。このシンボルマークは、高山工業高校インテリア科の課題研究グループ(2001年度3年生) 10名の生徒が考案・作成し、それを全県的なシンボルマークとして使用するようになった(2002年3月7日付, 県警本部長名で発出)。



図1 シンボルマーク

2. MSリーダーズ活動の開始

MSリーダーズ活動が始まる直接のきっかけとなったのは、2000年度に岐阜県で開催された「全国高校総合体育大会」における「一人一役活動」である。岐阜県内の全ての高校生が「一人一役活動」(岐阜県内5地区で高校生一人一役推進委員会が推進)を行い、ボランティアとして大会運営をサポートした。この経験により、多くの高校生は、「やればできるんだ」という自信を抱き、これが社会活動への積極的な参加のきっかけとなった。この「一人一役活動」は、岐阜県や岐阜県高等学校体育連盟が主導して、各校に呼びかけ、まさに「一人一役」を果たすことによって大会成功の原動力になった。この取り組みが、岐阜県内外から高い評価を得て、それを契機にMSリーダーズの取り組みにつながり、以降、発展することとなった。

では、その「一人一役活動」がどのようなものであったのかを確認しよう。平成12年度全国高等学校総合体育大会 岐阜県「高校生一人一役」推進委員会『2000年岐阜総体「一人一役」活動の記録』²⁾によると、「一人一役活動」について、次のように示されている。

第1に大会への関心を盛り上げていく「啓発活動」があげられます。今年はそれぞれの学校で学校推進委員会を作り、校内や地域への広報活動を展開しています。

第2に、全国から集う大会参加者を心から歓迎することです。そのために、学校や地域の美化活動に取り組みます。試合会場や練習会場を花で飾る「花いっぱい運動」や「ようこそ、岐阜へいらっしゃいました」と、私たちの素直な気持ちを形にして表す「あいさつ運動」などを行います。また、岐阜の思い出になるようにと、各学校でアイデアと工夫に満ちた「手作り記念品」の製作やガイドマップの作成を行うことにしています。さらに、8月1日に開催される総合開会式の公開演技や式典音楽などの練習も進んでいます。私たちの演技や演奏・合唱を通じて、心からの歓迎の気持ちを表現したいと思います。

第3に、各競技種目の運営を支える活動を積極的に行うことです。陸上競技をはじめとする27種目の競技をスムーズに運営するためには、たくさんの高校生のスタッフが必要です。その競技の部員はもちろん、その競技に今まで関係していない人達の積極的な支援活動が求められているのです。例えば、競技場の外でも駐車場・記録センター・総合案内所・高校生写真班など、数多くの活躍の場があなたを待っています。さわやかな笑顔と誠意で、全国から集う選手に接しましょう。そして、最高の舞台を私たちの手で整備しましょう。

また、「一人一役活動」の教育的意義については、次の5点が挙げられている³⁾。

- (1) 「全国から集う選手のために最高の舞台を準備する」ことを目指して、岐阜の高校生が互いに協力し、分担して大会の成功に向けて活動することにより、教室の中だけではくみにくい協調性や責任感を養う。
- (2) キャンペーン活動や環境美化、歓迎活動などの地域社会の人々や全国の選手・役員と接することを通じて、人の気持ちを大切にできる豊かな心と、自分から進んで行動するボランティア精神を養う。
- (3) インターハイに直接・間接的に参加することにより、生涯にわたってスポーツに親しみ、スポーツを楽しむという素地をつくる。
- (4) 関係市町村をはじめとする地域社会と連携して、活動を進めることにより、「学校」と「地域」の結びつきを深める。
- (5) 学校や地域の特色を生かした活動を進めることにより、郷土の再認識・再発見ができるとともに、地域社会への帰属意識や連帯感を高める。

「一人一役活動」の全体と各学校での取り組みは、図2、表2に示すとおりである。

なお、全国高校総合体育大会の本番前には、2000年7月11日～7月17日にかけて、岐阜県下7地区で「高校生による2000年岐阜総体を盛り上げる会」が実施された。この会の趣旨は次のように示されている。

「切り開け、岐阜から未来の1ページ」のスローガンのもと、2000年岐阜総体が8月1日から県下各地を会場として開催されます。全国から集う選手・役員・保護者の皆さんを温かく迎え、実り豊かな大会にするために、今日までさまざまな準備が進められました。私たち岐阜県の高校生は、「いつ、どこでも、明るくさわやかに迎え、岐阜の地は本当に良かった。」と喜んでもらえる大会にしたいと考えます。そのためには選手や大会関係者だけでなく、私たちも主体的に岐阜総体にかかわりたいと思います。本日長良川国際会議場に、岐阜地区の高校生の代表が集まり、今までの取り組みについて発表し、交流を図り、「2000年岐阜総体を一人一人の心に残る大会」にしましょう。」

7地区のうち、岐阜地区で行われた会の概略は次のとおりである。

- (1) 日時 2000年7月17日(月) 14:00~16:00
- (2) 場所 長良川国際会議場4階大会議室
- (3) 主催 岐阜地区2000年岐阜総体高校生一人一役推進委員会, 岐阜地区高等学校生徒指導研究会
- (4) 参加生徒・職員 約200名(34校)
- (5) 進行計画 開会宣言, 参加校紹介, 実行委員紹介, 趣旨説明, 各校の「一人一役運動」活動発表

意見交換Ⅰ 一人一役運動で良かった事項, 改善すべき事項

意見交換Ⅱ 全国の選手・役員・保護者を迎える態度・姿勢について

実践発表, アピールの朗読, アピールの採択, 「出陣太鼓」演奏, 閉会宣言

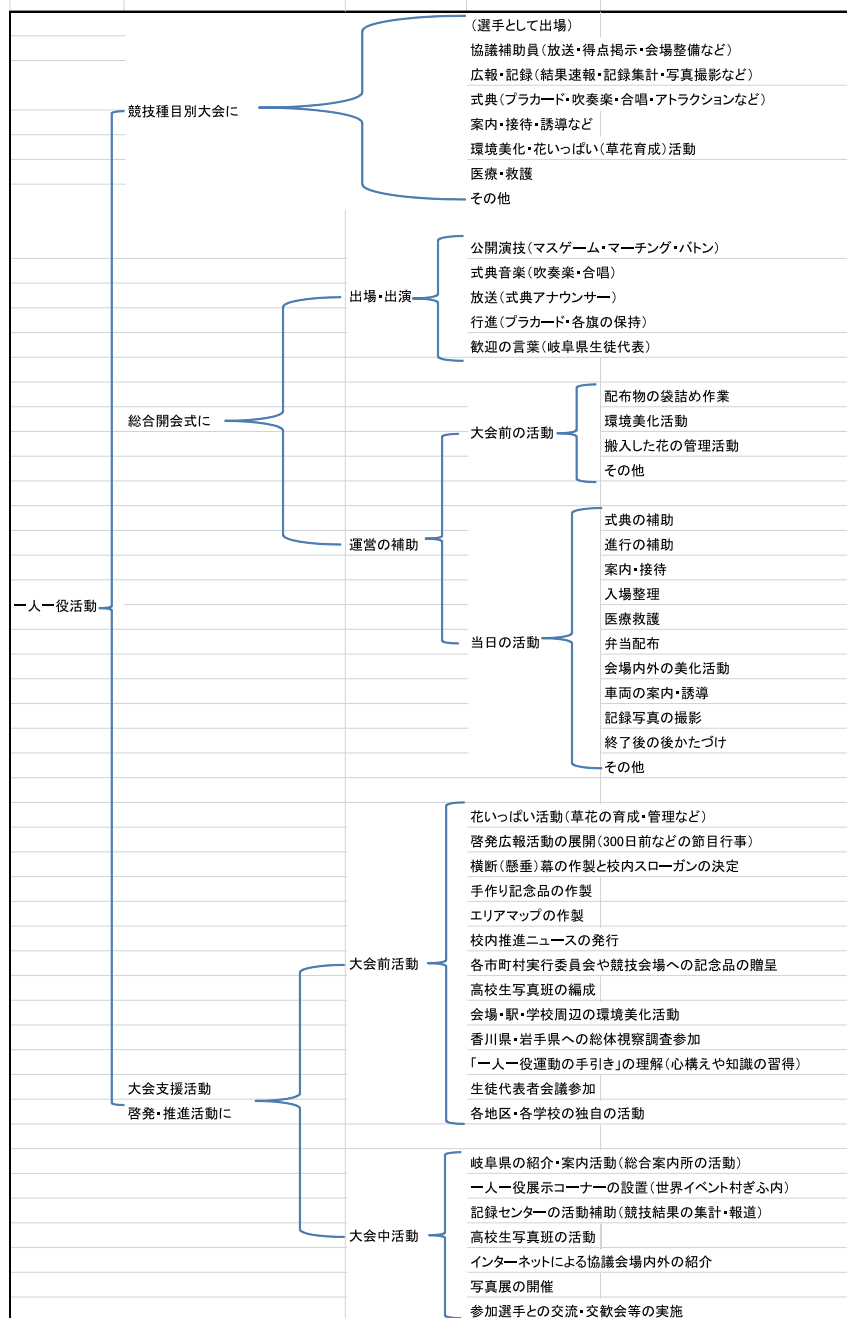


図2 「一人一役活動」の全体図

表2 「一人一役活動」の内容

区分	項目	内容	
県・地区推進委員会の計画に基づいて各校が実施する活動	役員・補助員の動員	◇総合開会式動員生徒・教職員氏名の県実行委員会への報告(4月) ◇競技種目別の競技役員(教職員)氏名の各会場地への報告(異動者分を4月中に) ◇競技種目別の補助員(生徒)氏名の各会場地への報告(5月)	
	手作り記念品	◇趣旨	○県内各校生徒が全国から集う選手に対して、真心を込めて作った手作りの記念品を贈呈し、思い深い大会とする。 ・2月各校の図柄の決定 ・4月製作開始 ・6月県推進委員会激励文作成配布 ・6月末製作完了 ・7月袋詰め作業後会場地実行委員会へ搬入
		◇計画	
	手作りエリアマップ	◇趣旨	○高校生の視点やアイデアを生かした競技会場周辺のエリアマップを作成し、岐阜の高校生が自ら進んで大会に参加する機運を高める。
		◇計画	○各競技種目担当中心校32校に依頼。会場周辺を取材し、手作りのイラストエリアマップを7月までに作成。
	環境・美化活動	◇大会前	○50日前・30日前キャンペーンの一環として、競技・練習会場の美化活動を実施する。 ○一週間前のクリーン作戦を担当する競技・練習会場に対して実施 ○各校の大掃除に合わせて学校周辺の美化活動を実施
		◇大会中	○担当会場及びその周辺の環境・美化活動を実施
	飾花・管理	◇活動内容	○担当会場の草花の管理育成(移植・水やり・施肥・摘心など) ○各校の花壇の整備、プランターの設置、友情の花の育成・管理) ○担当の会場地実行委員会と連携しプランターを搬入(7月)
	手作り横断(懸垂)幕の作成	◇趣旨	○啓発・歓迎用の横断(懸垂)幕を手作りで作製し、各校生徒のムードを高めると共に、全国から集う選手を温かく迎える。
		◇計画	○ターボリン生地(ロープ付)とペイント代等支給
	校内広報活動の推進	◇活動内容	○校内推進ニュースの発行(No.1～No.5まで) <その都度県・地区事務局へ提出> ○大会参加の校内放送 ○生徒代表のイベント参加報告
	高校生写真班の活動	◇趣旨	○高文連写真部の活動の一環として、高校生による写真班を写真部のある学校43校で編成し、記録アルバムを作成する。
		◇計画	○5・7月講習会開催 10月写真展開催
	活動記録のまとめ集の作成	◇趣旨	○学校・生徒推進委員会の活動を記録・保存し校史の1ページとすると共に、今後の教育活動に資する。
		◇時期・方法	○9月下旬 ○県・地区推進委員会に一部提出
		◇内容	○活動内容・実施報告(感想)文…選手、補助員、その他 ○記録写真、自校生徒を中心に写真班の編成。校内写真展などの開催
各校独自の計画	応援・歓迎活動	◇趣旨・内容	○自校選手の応援 ○県内・県外選手に対する友情応援の体制を組織し、競技を盛り上げると共に友情を育む ○歓迎友情看板等 ○自校が競技会場・練習会場にあたる場合には、接待所設置等
	速報活動・その他	◇趣旨・内容	○写真・取材班、インターネットによる速報活動 ○あいさつ運動(月・週間)など
会場	実行委員会からの要請	○環境・美化活動 ○案内所・競技場等での活動等に対し積極的に参加する	

3. MSリーダーズ活動の実際

(1) 活動意義

岐阜県高等学校生徒指導研究会の文書(「7年目を迎えたMSリーダーズ」2007. 春)によると、次の5点が活動意義として示されている。

- ①募集主体である警察としては、非行や犯罪を起こした少年を指導する領域から、健全で模範的の生徒を育成するプラスの領域へ踏み込むことによって、より積極的な警察活動が可能になったこと。
- ②普段は警察と縁が薄かった健全な高校生たちが、警察署員と一緒に活動することによって、警察をより身近に感じる事ができ、開かれた警察のイメージが構築されつつあること。
- ③高等学校側としても、生徒指導部(生徒支援部)は、生徒に注意・指導することはあっても、誉めるチャンスが少なかったが、MSリーダーズ活動を管理・監督することによって、これからの時代に即した積極的な生徒指導を展開できるようになったこと。

例えば負担増となっても、この活動主体を特別活動部へ渡せない一つの理由がここにある。もっとも、生徒主体で非行防止活動を推進することは、生徒の健全育成に図り知れない効果があるので、長期的に見れば負担減につながる。

- ④小学校や中学校と違い、校区を持たない高等学校にとっては、地域との連携はアキレス腱とも言えた。しかし、

地域から愛されない高校、応援されない高校では、これからの時代を生き残ることは極めて難しい。MSリーダーズ活動は、そのすべてが地域と高校をつなぐ活動ばかりで、正に「渡りに舟」であった。

- ⑤MSリーダーズ活動は、加盟条件のしびりが少ない（それだけファジー）ため、部活動・生徒会・全校生徒・支援する大人等を、横断的につなぐ横糸の役目を果たしている。いくつかの縦糸を横糸でつなげば、強力な面を形成することができる。また昨今叫ばれている組織改革や連携強化に対しても、MSリーダーズ活動の存在は一つのヒントを与えてくれている。

各学校の特色を生かした活動や学校同士の連携、地域との連携をもった活動も展開されており、これら高校生の取り組みは「岐阜県教育ビジョン」（2008年12月策定）で目指す「地域社会人」の育成に大きな役割を果たしている。なお、警察と高等学校との関わりに着目すると、MSリーダーズの制度開始当初までは、交通安全講話や防犯講話等での講師招聘、生徒の問題行動時の対応等にとどまっておられ、所轄警察署との関わりが希薄であった。しかし、MSリーダーズ活動を通して、警察のみならず、地域等との関係も一層良好になりつつある。街頭パトロールや防犯指導、地域清掃活動の際の警察の関与について、所轄警察署が直接的に主導して関わることはないが、地域、学校やPTA等の要請により参加し、連携して諸活動に関わっている。ただ、警察署によって対応に温度差があることも事実である。

(2) 活動形態

岐阜県生徒指導研究会（「Manners・Spirit・Leaders」について」2011.7.19）によると、MSリーダーズ活動の形態として、次の5つが示されている。

- ①部活動ではないので、部活動と生徒会との重複加盟が可能であること。普段目立たない生徒、意外な生徒、本当にボランティア活動が好きな生徒等、いろいろな生徒が加盟している。
- ②高校生主体の企画・運営で、警察や学校関係者はあくまでも後方支援であること。あまり大掛かりな活動は難しく、動員的な活動は趣旨に合わない。
- ③NPO団体等と連携して取り組むことができること。諸活動に高校生の知識や機動力を活かすことができる。
- ④警察主導の活動はわずかで、大半は高校生主体の活動であること。
- ⑤MSリーダーズ登録者のみで活動する場合と、MSリーダーズ登録者が全校生徒へ参加を呼び掛けて活動を行う場合があること。

(3) 活動内容と教育課程上の位置づけ

各学校の特色を生かし、企画された次のような自主的活動を中心に位置づけている。1つの学校で単独で行うこともあれば、地区の学校が複数集まり、合同で様々な活動が実施されることもある。そうした活動のとりまとめ等（企画・呼びかけ、準備、実践、反省なども含めて）は、所轄警察署、各校生徒指導部・生徒会担当者、各教育事務所地域担当生徒指導主事が担当している。複数校で行う具体的な活動としては、「高校生による交通安全推進大会」がある。これは、各教育事務所地域担当生徒指導主事が担当・運営している。また、MSリーダーズの呼びかけで、登録していない生徒が参加する活動もある。なお、活動趣旨に沿うものであれば、これ以外でも問わないとされている。全県的な動きについて、MSリーダーズは、各地区での活動が主であるため、通常は、全県的な集まりは特にない。

【主な活動内容】

- ①駅、校門等における挨拶運動などの少年の健全育成及び非行防止活動
- ②街パトロール活動
- ③学校周辺、駅、公園などの清掃や花植えなどの美化活動

- ④通学路の安全確保などの交通事故予防活動
- ⑤駅や学校の駐輪場の整理と自転車点検による盗難防止活動
- ⑥薬物乱用防止活動

薬物乱用防止活動に関するユニークな実践例として、学校祭に県警から薬物乱用防止宣伝カー「ASKA2000」を借り出し、MSリーダーズが受付をしながら啓発活動を行うものが挙げられる。

【教育課程上の位置づけ】

原則として、特別活動に位置づけられるが、取り組み内容に応じて、総合的な学習の時間で扱うものもある⁽⁴⁾。また、教育課程外活動の実践の単位認定について、高等学校学習指導要領では、学校外におけるボランティア活動等を増加単位として認める「学校外の学修の単位認定」が示されており、それに準じて各校の内規で定めている。ただ、MSリーダーズ活動は、教育課程内外に関係なく、学校の教育活動の一環として行われているため、単位認定の対象とはなっていない。

安全確保・事故対策（保険など）に関しては、独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度または社団法人全国高等学校PTA連合会賠償責任補償制度による対応となっている。これらの制度が適用されるためには、MSリーダーズが学校の教育活動として位置づけ、教職員にも認知されていなければならない。現在は、すべての高等学校の学校要覧にMSリーダーズが明記されており、生徒指導部の分掌に位置づいている。ただ、具体的な活動内容は、部活動も含めた特別活動での取り組みが中心となっている。

4. MSリーダーズ活動関連動向

岐阜県高等学校研究会・岐阜県高等学校生徒指導研究会の機関誌『みちびき』の記述等から、MSリーダーズ活動に関連した主要事項を整理すると、表3のようになる。

表3 MSリーダーズ活動関連動向

	主要事項	ポイント
1999年	全県での「高校生による交通安全推進大会」実施	高校生の交通事故の多発傾向が背景
2000年	岐阜県で開催された「全国高等学校総合体育大会」の運営における高校生のボランティア活動「高校生一人一役活動」	
	地区レベルでの「高校生による交通安全推進大会」開始	
2001年	飛騨地区においてMSリーダーズ活動開始	高山市と警察署の地域安全大会における高校生の発表に高山警察署長が感銘を受けたことが契機 MSリーダーズ活動を積極的生徒指導として認識
2002年	全県でMSリーダーズ活動開始	
	シンボルマークの決定（高山工業高等学校インテリア科の課題研究グループの生徒が考案・作成）	
2003年		学校独自のMSリーダーズ活動への支障を懸念
		MSリーダーズ活動と「高校生による交通安全推進大会」の連携
2004年		学校・地域によってMSリーダーズ活動の取り組みに対して温度差
		MSリーダーズ活動と地域との関わりの拡大
2005年	「岐阜県児童生徒健全育成サポート制度」開始	複数の学校が合同で行うMSリーダーズ活動の増加
	美濃地区「美濃さわやかプロジェクト」開始	
2006年	可茂地区「生徒会交流会」開始	生徒会執行部全員がMSリーダーズ登録
2007年	「高校生のびのびプロジェクト」開始	
2008年		MSリーダーズ活動に対する地域からの評価が向上
2009年		MSリーダーズ活動の在り方の再考
2010年		地域の関係諸機関との連携した活動が定着・拡大
2011年	「MSリーダーズ活動10年目記念事業」開催	地域への社会貢献として認識されるMSリーダーズ活動
2012年		他校・異校種との連携が拡大、情報モラル教育重視

(1) 2001年飛騨地区においてMSリーダーズ活動開始

飛騨地区に限らず、1990年代の実態として、岐阜県では、全県的に学警連⁵⁾との関連で、交通安全指導や薬物乱用防止啓発活動が精力的に展開されていた。その中でも飛騨地区では、2000年に高山市と警察署の地域安全大会において、高山市内の高等学校5校の生徒代表が、「少年犯罪について」「高山市の未来について」などをテーマに意見交換をした際、同席した当時の高山警察署長（後の県警本部生活安全部長）坂本靖夫氏が、高校生の主張や意見に感心し、高校生の自己指導力の向上を目指した取り組みを支援したことに端を発している。

坂本氏は、次のように述べている。

「高校総体の「一人一役運動」の延長線で、高校生をその主体にして活動を展開すれば、今この子たちの良い行動が社会規範となり、それが伝えられて後、十年もすればほとんどの子たちが結婚し、親になるのである。そして社会のリーダーになってもらえば、この精神がもっと広がるものと思う。このアウトラインで警察から飛騨教育事務所学校教育課生徒指導主事への呼び掛け相談で、賛同が得られた。校長会長から各学校の校長にも持ち掛けられ、生徒のある意味で「社会参加活動は、教育の一環」と承知された。体験を通じて充実感や達成感を体験させていくことが、心の教育となり、感動を生み新たな目標を目指すきっかけとなるであろう、と。」⁶⁾

具体的な取り組みとして、最初にあったのが2000年10月に開催された「地域安全運動高山地区大会」である。主な内容は3つであった。第1は、会場準備等である。会場のレイアウトや看板は高山工業高等学校、花等の飾りつけは斐太農林高等学校、飛騨太鼓のアトラクションは高山工業高等学校が担当した。また、高山工業高等学校の生徒が、会場内に「日本一短い手紙」と称した勉強や親、友だちのことなどを一筆啓上方式で掲示した。第2は、高校生による意見発表である。高山市内5校の生徒が、「青少年の犯罪に思うこと」「現代の少年犯罪について」「青少年の犯罪そして未来の高山」「少年法を考える」「青少年犯罪を減らすために」と題して、意見発表した。第3は、市内パトロールである。一日警察官として制服を着用し、徒歩やパトカーによって市内をパトロールした。

こうした流れの中で、2001年に飛騨地区において、青少年の健全育成と規範意識の啓発を図るため、MSリーダーズが組織され、9校91人の体制でスタートした。なお、10年後の2011年5月23日（月）には、この飛騨地区限定であるが、高山警察署管内の各校のMSリーダーズ全員を対象に、MSリーダーズ発足10周年記念行事が開催された。そこでは、MSリーダーズ証の交付、MSリーダーズの10年のあゆみについての講話、代表生徒による提言などがなされた。

(2) 全県レベルにおけるMSリーダーズ活動の発展・拡大

MSリーダーズ活動が全県的に定着するに伴って、その活動も発展・拡大するようになってきた。

①「高校生による交通安全推進大会」

1999年に、県内高校生の交通事故の多発傾向を受けて、生徒たちの手で推進大会を企画・運営することで交通安全を自らの問題として考え、交通安全に対する意識の高揚を図ることをねらいとして、県下各地区の生徒代表を一同に会して開催された。交通事故の現状、提言、パネルディスカッション、報告、アピール文採択等を行い、内外から高い評価を得た。そこで、これを発展させ、各地区で地域の実情や実態に合った推進大会を開催することがより効果的であるとして、2000年から各地区での開催となり、今日に至っている。当初は、実行委員会方式で運営していたが、生徒会役員がその役割を担う地区、MSリーダーズがその役割を担う地区などが出てきている。あるいは、可茂地区のように、生徒会交流会の場として活用しているところもある。現在は、各地区の実情や実態に応じて開催されており、運営方式・組織に制約はなく、それよりも、より効果的で実のある生徒たちによる企画・運営がなされることを重視している。

「みちびき」によると、1999年の「高校生による交通安全推進大会」は、「高校生が自分たちの手

で運営する交通安全推進大会を開催することにより、高校生が交通安全を自らの問題として考え、交通安全に対する意識の高揚を図るとともに交通マナーの向上に資する」ことが目的として示され、岐阜県高等学校生徒指導研究会（交通安全教育研究委員会）主催で、県下各地区代表校と協力校の26校89名の高校生が参加した。

報告「高校生が関係した交通事故」、提言「ここが危ない！ 高校生」、パネルディスカッション、報告「交通安全への取り組み」、『高校生の交通安全アピール』などが主たる内容であった。そして、この「高校生による交通安全推進大会」の成果として、次の3点が示された。

- 1) 高校生の手で充実した大会運営ができた。特にパネルディスカッションにおいては、パネルメンバーだけでなく会場の参加者からも活発な意見の発表・交換があり、高校生が交通安全を自分たちの問題として考えることができた。
- 2) 「ここが危ない！ 高校生」で、今まで気づいていなかった危険な自転車の乗り方や周りに迷惑をかけている行動を指摘され、自分たちの交通マナーを見直すきっかけとなった。
- 3) 『高校生の交通安全アピール』を採択し、県下全ての高等学校・特殊教育諸学校に発信した。

また、『高校生の交通安全アピール』では、以下のアピール文が朗読・採択された。

「(前略) 私たちは、自らの命や身体を交通事故から守るだけでなく、他の人の安全をも保障するという、高校生にもできる社会貢献の一つとして、次の3点を行動に移していきたいと思います。

- 1 「交通ルールを守ろう。」当たり前なことではありますが、高校生も交通社会の一員であり、「これくらいは」とか「自分だけじゃない」といった考えを捨てて、まず自分が交通ルールを守るという意識を持つことが必要です。
- 2 「危険を予測した行動をしよう。」道路上には様々な危険が待ちかまえています。高校生の交通事故で特に多いのは、登校時、交差点での出会い頭の接触事故です。しかし、これらの多くは、危険を予測した行動や余裕のある行動によって避けることができます。
- 3 「交通マナーを向上させよう。」地域の皆さんから、高校生の交通マナーの悪さが厳しく指摘されています。道路や交通機関は高校生だけのものではありません。他の人たちのことを一切考えていない行動や、周りの人たちの迷惑をまったく気づいていないことがなかったでしょうか。私たちは今一度、他の人たちへの思いやりの心で、自分の交通マナーを点検してみる必要があります。家族や友人を悲しませたり心配させたりする交通事故を、私たち自身で防ぎましょう。

このアピールが自分自身の行動を振り返り、また、各学校での交通安全への取り組みを一層進めるきっかけとなることを願っています。来年は「2000年岐阜総体」が開催され、全国から約3万人の高校生がこの岐阜の地に集まってきます。遠来の選手達を心から歓迎する私たちの気持ちを、高校生の爽やかな「交通マナー」によってあらわそうではありませんか。」

②「岐阜県児童生徒健全育成サポート制度」

主なものとしては、2005年に始まった「岐阜県児童生徒健全育成サポート制度」がある。その趣旨は、「児童生徒の安全を脅かす犯罪や事故等が多発する中で、少年の非行等問題行動が多様化、深刻化している現状を踏まえ、児童生徒の安全確保と問題行動に関し、学校と警察が連携し、保有する情報を相互に連絡することにより、児童生徒に対する適切かつ継続的指導を行い、もって、児童生徒の被害防止及び非行防止など健全育成に資することを目的とする。」とされている。

③「高校生のびのびプロジェクト」

2007年から開始された「高校生のびのびプロジェクト」も注目に値する。青少年健全育成強調月間

の一環として、青少年の規範意識の高揚と社会参加活動の推進を進める街頭啓発活動等が位置づけられた。そして、各校におけるこれらの取り組みを「高校生のびのびプロジェクト」と名づけ、各校で自主的に企画・運営するよう、岐阜県が推進・支援する取り組みである。この「高校生のびのびプロジェクト」に関連して、青少年健全育成強調月間は総理府が音頭をとっている事業で、知事部局（岐阜県では男女参画青少年課）が行っている。ただ、知事部局で独自に取り組むことが困難であるため、既存のMSリーダーズ活動である「高校生のびのびプロジェクト」をこの強調月間の取り組みとして位置づけている。すなわち、MSリーダーズ活動の捉え方を変えて、強調月間事業と位置づけている。

④MSリーダーズ活動10年目記念事業（MSリーダーズ研修会）

2011年8月2日には、MSリーダーズ活動10年目記念事業（MSリーダーズ研修会）が開催された。開催趣旨として、「こうした活動が、警察はもちろんのこと、教育委員会・自治体・NPOボランティア団体などから支援を受け、本年度で10年目の節目を迎えたことから、この活動の趣旨を再確認し、さらなる活動の発展継続を目指」すことが謳われた。県内28校から63人が岐阜県警察本部に集まり、記念品贈呈（MSリーダーズ活動用幟）や基調講演「MSリーダーズ10年目にあたって」（坂本靖夫：元県警生活安全部長）、岐阜県警察本部庁舎見学などが行われた。また、生徒によるグループ討議では、3つのテーマが取り上げられた。

- グループ1「命の大切さについて」：東日本大震災後の現地での被災地支援のボランティア活動に参加した生徒の報告を受けた後、9校21人の生徒が感想を述べながら、各学校の取組について意見交換をした。
- グループ2「あたたかい言葉かけについて」：9校22人が、学校で行った被災地支援の募金活動体験について取組の感想などをもとに、これからの温かい言葉かけについての実践活動について討議した。
- グループ3「情報モラルについて」：10校20人が少年課の方から講話を聞いた後、各学校での活動の紹介を行った。

そして「MSリーダーズ活動を推進することは、生徒の健全育成に計り知れない効果がある。また、校区を持たない高校が、地域とつながる活動を企画し、生徒の姿を身近に感じてもらう良い機会である。今後も、生徒の自主的な活動がさらに充実した内容となるよう支援していきたい。」旨が述べられ、終了した。

(3) 地区レベルにおけるMSリーダーズ活動の発展・拡大

①可茂地区

生徒会交流会とMSリーダーズの関係について、地区全校（1校を除く）の生徒会執行部は全員がMSリーダーズとして登録している。また、生徒会交流会は、各校の生徒会執行部生徒代表4名が参加して、年2回開催されている。この生徒会交流会は、2006年度から実施されている。その意義として、担当者は次のように述懐している。

「高校生の服装やマナーの問題、規範意識の低下等が、いろいろな場面で取り沙汰されている。各高等学校では、そんな生徒達と向かい合い、日夜、生徒指導に取り組んでいる。教師主導の指導には即効性があり効果も見られるが、校外に出ると地域の方々が目を覆うような姿や行動に至ってしまう。このような現状を考えると時間がかかっても、教師が支援者となり、生徒自身の自浄力に頼る生徒指導も必要である。その集団として各高等学校の生徒会の活性化を図ることだと考え、この交流会を設定した。自校の様子を他校と比較しお互いを刺激しあったり、同じ生徒会での悩みや苦しみを共感し、励まし合うことで彼らに自信を持たせ、自校の発展のための活力につなげたい。そして、この取り組みが、高校生に対する多くの問題を解決する糸口となることを期待したい。」

なお、近年では、発表校の特徴ある取り組みを発表するとともに、学校祭（体育大会・文化祭）に関する情報交換を行い、各校の活発な学校祭運営に寄与している。また、2011年度は、第2回の生徒

会交流会で、JR美濃大田駅前歳末助け合いの募金活動、東日本大震災の復興支援に参加した生徒の発表も組み入れて開催された。

②恵那地区

「生徒会執行部の生徒・担当職員の交流研修会」「恵那地区高等学校生徒会研修会」がある。これは、地区内の各校の学校祭を盛り上げるために、色々な学校の取り組みを交流することから始まり、徐々に各校生徒会が抱える問題や規律・マナーに関する問題まで取り上げるようになり、輪が広がってきている。生徒の自治的活動に力を入れているという地域性が反映されたものである。

③美濃地区

2005年から、「美濃さわやかプロジェクト」が始まった。これは、美濃地区高校生徒指導研究会が立ち上げたもので、2005年度は「身だしなみの向上」と「各種マナーアップ」、長良川鉄道乗車マナー向上」を重点課題とした。その一環として、長良川鉄道の乗車マナー向上のための「MSリーダーズと長良川鉄道の懇談会」が開催された。

5. MSリーダーズ活動の定着状況

『MSリーダーズ活動報告書』（2002年度～2012年度）から、MSリーダーズ活動への参加校と登録生徒数を確認し、「学校の参加率」、「生徒の登録率」、「1校あたりの平均登録生徒数」を算出した。全高等学校数・全生徒数は、岐阜県教育委員会ホームページ「県内学校の現況」（各年度5月1日現在のデータ）の数値を用いた。なお、特別支援学校・高等専門学校及び在学生徒は除いて集計した。

学校の参加率は、全県で始まった最初の年（2002年）には80.0%であったのが、2003年以降は約90%で推移している。生徒の登録率は、年度進行に伴って生徒の登録率も高くなり、2010年度からは約1割の生徒がMSリーダーズに登録している。1校あたりの平均登録生徒数は、「生徒の登録率」と同様、年度進行に伴って1校あたりの平均登録生徒数も多くなり、2013年度は80人を超えるまでになった。

6. MSリーダーズ活動の効果

(1) 警察資料からみるMSリーダーズ活動の効果

岐阜県警察本部生活安全部少年課「少年非行の現況」から、刑法犯少年として検挙・補導された高校生について、県下全高校生に占める比率を確認した。MSリーダーズ活動が始まる少し前（1998年）まで増加傾向にあり、その後、いったん減少するものの増加に転じた（2005年頃まで）。しかし、2005年を境に、その後は減少している。「MSリーダーズ活動に関連する動向」で、MSリーダーズ活動を積極的生徒指導として捉えていたが、治療的生徒指導の側面も有しているようである。高校生の交通事故発生推移の中で、負傷者数について、県下全高校生に占める比率を確認した。1999年に全県で「高校生による交通安全推進大会」が実施されるに至る背景として、高校生の交通事故の多発傾向があるとされたが、それが確認できる。全体としては、増加傾向は続いており、MSリーダーズ活動が全県に定着し、交通安全啓発活動を積極的に行っているが、それが負傷者比の低下に直接はつながっていないことがうかがえる。

表4 MSリーダーズ活動の定着状況

	学校の参加率 (%)	生徒の登録率 (%)	1校あたりの平均登録生徒数 (人)
2001年	8.6	0.1	10.1
2002年	80.0	2.3	18.6
2003年	87.6	3.7	26.9
2004年	87.4	4.5	32.1
2005年	88.7	5.3	38.7
2006年	87.6	6.0	42.8
2007年	89.2	7.0	49.7
2008年	88.3	8.1	57.3
2009年	87.4	8.9	62.3
2010年	89.5	10.0	68.6
2011年	89.5	10.6	72.5
2012年	89.5	10.5	72.6
2013年	90.5		82.1

(2) 生徒指導上の諸問題からみるMSリーダーズ活動の効果

岐阜県における「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」結果から、「暴力行為」、「いじめ」、「不登校」、「中途退学」に着目して、その現況を確認する。

「暴力行為」の加害生徒の比率は、0.3%を境に前後しており、MSリーダーズ活動の開始前後で顕著な変化は見られない。ただ、学校の対応としては、友人関係の改善や規範意識の醸成など、積極的生徒指導がなされるようになってきている。「いじめ」1校あたりの発生/認知件数について、2005年度までは発生件数、2006年度からは認知件数であることに留意する必要があるが、2003年度から2007年度まで増加傾向にあったものが、2007年度以降は、わずかではあるが減少傾向に変わった。ちなみに、2007年度以降、1校あたりのMSリーダーズ平均登録生徒数が約50人を超えるようになってきている。不登校率については、特に顕著な特徴はみられなかった。中途退学率について、2008年度まで1.5%を下回することはなかったが、2009年度には1.25%となった。2006年度以降、概ね微減傾向にあるといえる。なお、「不登校率」も、2007年度から2009年度にかけて減少傾向にあった。

以上、「暴力行為」、「いじめ」、「不登校」、「中途退学」の経年変化を概観したが、際立った大きな変化はなく、MSリーダーズ活動との明確な関係も見出すことが困難であった。見方を変えれば、学校内

における消極的生徒指導とMSリーダーズ活動は結びつかないのかもしれない。ただ、警察資料から読み取れたように、学校外の消極的生徒指導とは、関係がありそうであることは留意しておきたい。

表5 警察資料

	刑法犯少年の割合(%)	負傷者数割合(%)
1990年	0.5	0.49
1991年	0.5	0.49
1992年	0.5	0.55
1993年	0.5	0.50
1994年	0.7	0.57
1995年	0.7	0.63
1996年	1.1	0.66
1997年	1.2	0.65
1998年	1.3	0.60
1999年	1.0	0.69
2000年	1.0	0.77
2001年	1.1	0.80
2002年	1.5	0.73
2003年	1.2	0.77
2004年	1.2	0.80
2005年	1.3	0.87
2006年	1.0	0.83
2007年	1.0	0.93
2008年	0.9	0.88
2009年	0.9	0.72
2010年	0.7	0.79
2011年	0.6	0.64
2012年	0.5	0.61

表6 「暴力行為」加害生徒の割合(%)

1997年	0.26
1998年	0.39
1999年	0.28
2000年	0.29
2001年	0.26
2002年	0.29
2003年	0.24
2004年	0.25
2005年	0.31
2006年	0.34
2007年	0.24
2009年	0.34
2010年	0.25
2011年	0.22

表7 「暴力行為」加害生徒に対する学校の対応(%)

	2008年	2009年	2010年	2011年
被害者等に対する謝罪指導	90.3	77.0	83.2	96.1
友人関係を改善するための指導	50.0	53.1	62.4	72.1
ルールの徹底や規範意識を醸成するための指導	78.5	91.3	95.3	100.0
個別に学習支援	29.2	23.5	25.5	29.5
当該生徒が意欲をもって活動できる場を用意	21.5	30.6	29.5	34.1
教職員との関係改善	18.1	10.2	14.1	16.3
保護者の協力を求めて、家族関係等の改善・調整	26.4	7.7	20.8	24.0

表8 いじめ・不登校・中途退学

	いじめ(件)	不登校率(%)	中途退学率(%)
2000年	0.96		1.9
2001年	0.87		2.0
2002年	0.83		1.6
2003年	0.69		1.5
2004年	0.89	1.17	1.6
2005年	1.26	1.04	1.6
2006年	3.20	1.68	1.7
2007年	4.79	1.73	1.7
2008年	3.46	1.54	1.6
2009年	3.39	1.32	1.3
2010年	3.36	1.46	1.3
2011年	3.84	1.47	1.3

(3) 生活実態・意識調査報告書からみるMSリーダーズ活動の効果

岐阜県高等学校教育相談研究協議会・岐阜県高等学校生徒指導研究会「生活実態・意識調査報告書」(1998・2003・2008年度)から、MSリーダーズ活動の効果を検証してみる。1998年度は、MSリーダーズ活動が始まる前の状態、2003年度(学校参加率87.6%、生徒登録率3.7%、平均登録生徒数26.9人)と2008年度(同88.3%、8.1%、57.3人)は、MSリーダーズ活動が定着した頃の状態として解釈できる。

学校での掃除の取り組みについて、「まじめにやっている」「一応やっている」の合計をみると、1998年度が74.8%であったのが、2003年度84.8%、2008年度88.0%となっており、掃除の取り組み状況が向上していることがわかる。MSリーダーズ活動として取り組んでいる地域での清掃活動の成果が表れているものと思われる。

複数回答で「してもいいと思っていること」を聞いた結果が表10であるが、すべての項目で年度進行に伴って「してもいいと思う」割合が低下している。これは、規範意識が高まっている証左である。

高校に入学してから取り組んだボランティア活動について、複数回答で聞いたところ、「清掃活動」で増加傾向が認められるものの、「災害復旧活動」「資源回収」「一人暮らしの高齢者宅・福祉施設等の訪問」については減少傾向にある。ただ、「したことがない」割合をみると、1998年度73.9%、2003年度73.7%、2008年度69.3%となっており、その比率は減少している。このことから、選択肢として提示された活動ではない、別の何らかのボランティア活動に取り組む（取り組んだ）生徒が増えているものと考えられる。

以上、「学校での掃除の取り組み」「してもいいと思っていること」「高校入学以後に行ったボランティア活動」を概観すると、規範意識が高まっており、MSリーダーズ活動の成果が表れていると推察される。

7. MSリーダーズ活動の取り組み状況の経年変化

『MSリーダーズ活動報告書』（2002年度～2012年度）から、MSリーダーズ活動として取り組んだ活動を、「非行防止活動」、「地域安全活動」、「防犯活動」、「環境美化活動」、「交通事故防止活動」、「薬物乱用防止活動」、「モラル向上活動」、「交流活動」、「社会貢献活動」、「地域イベント支援活動」に大きく分類した。そして、それぞれの具体的な活動に関して、全県・地区別（岐阜・西濃・中濃・東濃・飛騨）に、実践した学校数（率）、実践回数（1校あたりの平均実践回数）を算出した。ここでは、2002年度と2012年度について、全県の実践した学校の割合と1校あたりの平均実践回数を示す。

実践した学校の割合について、2012年度の現状としては、「交通安全マナーの呼びかけ」を実施している学校が74.1%、以下、「地域清掃」71.8%、「挨拶運動」62.4%と続いた。2002年度と比較すると、5項目で割合が高くなっているが、「青少年非行防止啓発活動」「青少年健全育成啓発活動」はあまり変化はなく、むしろ低調になっていることがわかる。

表9 学校での掃除の取り組み（%）

	1998年度	2003年度	2008年度
まじめにやっている	23.3	31.3	31.2
一応やっている	51.5	53.5	56.8
あまりやらない	14.7	9.4	7.2
ほとんどやらない	10.5	5.8	4.8

表10 してもいいと思っていること（%）

	1998年度	2003年度	2008年度
授業中に他のことをする	29.0	19.7	16.5
宿題の答えを友人に借りて写す	52.7	37.8	33.7
教科書やノートを学校におきっぱなしにしておく	81.5	74.9	71.4
学校へ週刊誌やマンガを持ってくる	62.7	52.2	38.4
学校で菓子類を食べる	67.4	61.5	61.0
制服を変形したり、頭髪を変色したりする	43.2	28.3	16.2
学校へ化粧をきたり、アクセサリーやピアスなどを持ってくる	41.8	32.7	18.6
無断で他人の物を使う	4.3	2.7	2.3
親に無断で友人の家に泊まる	12.2	7.7	5.7
上記のことはすべてしてはいけない		8.4	10.4

表11 高校入学以後に行ったボランティア活動（%）

	1998年度	2003年度	2008年度
一人暮らしの高齢者宅・福祉施設等の訪問	8.9	5.2	2.8
募金活動	8.7	5.6	8.9
清掃活動	7.6	9.8	9.8
資源回収	3.6	3.5	3.3
災害復旧活動	0.8	0.5	0.6
したことがない	73.9	73.7	69.3

表12 実践した学校の割合 (%)

	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
交通安全マナーの呼びかけ	34.5	30.4	52.2	65.9	83.5	77.1	77.1	84.3	72.9	80.0	74.1
地域清掃	58.3	56.5	64.4	78.8	70.6	72.3	74.7	65.1	67.1	71.8	71.8
挨拶運動	17.9	17.4	22.2	32.9	43.5	61.4	61.4	66.3	63.5	64.7	62.4
自転車点検	16.7	9.8	24.4	31.8	29.4	30.1	32.5	33.7	37.6	30.6	28.2
地域安全のための啓発活動	20.2	26.1	20.0	21.2	22.4	19.3	18.1	27.7	1.2	25.9	17.6
自転車盗難防止活動	10.7	17.4	8.9	15.3	18.8	31.3	24.1	20.5	18.8	23.5	20.0
青少年非行防止啓発活動	16.7	39.1	46.7	18.8	23.5	15.7	34.9	12.0	23.5	15.3	1.7
青少年健全育成啓発活動	29.8	19.6	21.1	21.2	5.9	9.6	16.9	13.3	14.1	15.3	21.2
駐輪場の整理	11.9	7.6	7.8	9.4	11.8	16.9	13.3	12.0	7.1	15.3	11.8

1校あたりの平均実践回数について、2012年度の現状としては、「遅刻防止の呼びかけ」25.5回が最も多く、以下、「身だしなみ向上の呼びかけ」16.2回、「挨拶運動」15.9回、「駐輪マナーの呼びかけ」14.5回と続いた。ここに提示したすべての項目で、2002年度よりも回数が増加している。

総じて、2002年度と2012年度の状況を比較すると、様々な活動に取り組む学校が増加し、また、その活動頻度も多くなっていることがわかる。これは、MSリーダーズ活動の定着・発展を意味しているといっても過言ではない。ただ、当初からMSリーダーズ活動として取り組むものとされていた非行防止啓発活動について、実践する学校の割合に大きな変化が認められないことは、今後の検討課題であろう。

表13 1校あたりの平均実践回数 (回)

	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
挨拶運動	2.3	4.3	5.3	4.3	7.4	7.5	7.4	6.4	6.7	8.9	15.9
横断歩道等の安全誘導	1.0	1.0	8.5	4.0	3.0	3.5	1.2	14.8	3.4	6.3	2.7
遅刻防止の呼びかけ	1.0	1.0	1.3	1.0	1.0	1.0	4.0	1.0	5.7	6.0	25.5
身だしなみ向上の呼びかけ	1.0	1.0	17.0	3.0	1.5	4.6	12.0	10.3	8.7	6.0	16.2
交通安全マナーの呼びかけ	1.6	3.1	4.6	4.3	6.0	9.0	7.5	6.3	5.9	5.5	9.3
駐輪マナーの呼びかけ	0.0	1.0	1.0	2.0	1.0	1.8	7.0	1.5	13.7	5.0	14.5
駐輪場の整理	2.0	5.1	2.0	1.1	1.5	4.0	2.7	4.7	3.5	4.7	12.0
地域清掃	1.9	2.0	2.3	2.7	2.9	3.7	3.9	3.6	4.2	3.2	7.8
鉄道乗車指導	1.0	1.0	1.1	1.6	1.3	1.3	0.0	0.0	1.0	3.0	1.0
乳幼児との交流	0.0	0.0	0.0	1.0	4.8	1.0	1.5	1.0	2.0	2.5	1.5
募金活動	1.0	1.8	2.7	1.4	2.3	1.8	1.3	7.5	1.3	2.4	1.3

IV. 今後の課題

MSリーダーズ活動の現況や効果等について既存の調査データや資料等から確認してきたが、実際に活動現場を参観して、リアルな高校生の言動や他者との関わりなどを体感する必要がある。そうした活動を重ねていく中で、MSリーダーズ活動の可能性と限界が見えてくるものと思われる。そこで得られた知見を、MSリーダーズ活動に特化した意識・実態調査、例えば教師や生徒対象の質問紙調査や聞き取り調査などで具体的に実証することも求められよう。

それに関連して、これまでのMSリーダーズ活動に関する基礎資料の収集・分析の過程で、2000年8月の全国高校総合体育大会終了後、同年11月に一人一役活動の効果を検証する調査が実施されていることが明らかになってきた。そこでは、「ボランティア活動を通して味わった感動と規範意識、スポーツや芸術で覚えた感動と規範意識の因果関係について分析し、密接な関係があることを数値の上で立証した」(岐阜県生徒指導研究会「「Manners・Spirit・Leaders」について」2011. 7. 19)とさ

れている。MSリーダーズ活動の在り方を考える上で貴重なデータが示されているが、まだ、入手できておらず、その収集も大きな課題である。また、MSリーダーズ活動の可能性という側面では、現在、北方警察署管内にある中学校8校において、2007年4月1日にMSJ (Manners Spirit Junior) が結成され、MSリーダーズ活動の中学校版として取り組まれている。その設立に関しては、MSリーダーズ活動を高校生だけでなく、中学生にも広げることで活動の裾野を広げることになり、それが、思春期にある中高生の規範意識をさらに高め、より一層の非行防止・健全育成につながるという発想がある。

こうした中学校への拡大、あるいは、岐阜県内における拡大・定着に留まることなく、県外の自治体への波及効果も意識することが重要である。その前段階として、類似の活動を比較検討することが求められる。例えば、青森県警と中学生が取り組んでいる「JUMP・TEAM」は、MSリーダーズ活動に先行しているもので、リトルJUMPチームが生まれる動きも見られるなど、その活動内容や展開の仕方など、検証するに値するであろう。あるいは、東京都では、東京都福祉保健局が薬物乱用防止高校生会議を開催し、高校生主体の活動を支援している。こうした事例の収集・分析も、MSリーダーズ活動の独自性を明確にし、今後の展開方針を検討する上で不可欠であるといえる。

《注記・参考文献》

- (1) 林幸克「高校生の規範意識に関する基礎的研究」『岐阜大学教育学部研究報告—人文科学—』第61巻第2号、2013、p.244
- (2) 平成12年度全国高等学校総合体育大会 岐阜県「高校生一人一役」推進委員会『2000年岐阜総体「一人一役」活動の記録』、p.184
- (3) 前掲 (2)、p.184
- (4) 文部科学省・警察庁「非行防止教室等プログラム事例集」2005の中でMSリーダーズ活動について紹介した事例8「警察と連携し高校生ボランティアが中心となった規範意識啓発の取組」(高等学校)では、保健所や警察との連携による薬物乱用防止教室の実施は、総合的な学習の時間の位置づけとなっていることが明記されている。
- (5) 「学警連」とは、「高等学校警察連絡協議会」の略称で、各高等学校の生徒指導主事と各地区の警察署の少年課少年担当とが顔合わせをし、情報交換をする場である。地区(警察署管内)単位で組織化されているが、年度初め・終わりに会合が持たれる程度で、日常的に頻繁に行われているわけではない。
- (6) 坂本靖夫「MSリーダーズ活動 そのアプローチ 高校生に体験的感動を！」(2002/1/20)「みちびき」No.36、pp.81-83.

